(様式2)

校種	小	学校番号	58	学校名	宇都宮市立西が岡小学校
----	---	------	----	-----	-------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・ 市の学力調査の結果から、6年生国語の「話すこと・聞くこと」の領域では、話を聞いて大まかな内容を捉えることが概ねできている。一方で、「書くこと」の領域で、理由や根拠を取り上げたり指定された文字数でまとめたりするなど条件に合うように自分の考えを表現すること、「読むこと」の領域で、段落同士のつながりを考えて要約することなどに課題が見られる。
- ・ 6年生算数の「変化と関係」の領域では、百分率で表された数量の関係を比べることや、伴って変わる2つの数量の特徴を読み取ることができている。「数と計算」の領域では、分数の約分、乗法及び除法の計算に課題が見られる。
- ・ 6年生社会の「農業や水産業」の領域では、グラフをはじめ様々な資料から食料の自給率について捉えることができている。社会では文化遺産に関する問題、理科では電磁石に関する問題の正答率が低い。
- ・ 県の学力調査の結果から、4・5年生国語では、「書くこと」の領域で、文字数に合わせて自分の考えを文章で表すこと、「話すこと・聞くこと」の領域で、話を聞いて大まかな内容を捉えることが市の平均を上回っている。「読むこと」の領域では、内容を正確に読み取ることや要約することに、課題が見られる。
- ・ 4年生算数は、どの領域も県の平均を下回っている。一方で、5年生算数は、「図形」、「データの活用」の領域で、県の平均を上回っていた。4年生5年生理科は、いずれも『「生命」を柱とする領域』で県の平均を上回っていた。基礎的な学習内容が身に付いていない児童が多く見られる。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・ 3～6年生に対しての「学校の授業がどの程度分かりますか。」の設問で肯定的に回答した児童の割合は、全ての学年で市の平均を上回っていた。
- ・ 3～6年生で、家庭での学習について、「授業で習ったことをその日のうちに復習している。」、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」、「テストで間違えた問題をもう一度やり直している。」、「家の人は、学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる。」と肯定的に回答した児童の割合は、4・5年生においていずれも市の平均を上回っていた。
- ・ 「勉強が好き。」、「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に回答する児童の割合は、市の平均を下回る学年が多かった。
- ・ 「宿題をきちんとやっている。」と肯定的に回答した児童の割合は、6学年のうち5学年が市の平均を下回った。
- ・ 家庭学習についての質問では、平日については市の平均と比べて全体的に少ない傾向にある。「ほとんど学習をしていない。」と回答する児童の割合は市の平均と比べて高く、課題が見られる。

(3) 授業等への取組状況から

- ・ 体験的な活動や課題解決的な学習に意欲をもって取り組む児童が多い。
- ・ 決められた課題には、真面目に取り組もうとする児童が多い。
- ・ 自分の言いたいことを正確に伝えたり、相手の気持ちや意図を正確に聞き取ったりすることに消

極的な児童が見られる。

- ・ 習得した知識・技能を活用して課題を解決したり、粘り強く最後まで取り組んだりする態度は十分とは言えない。
- ・ 各教科における基礎的・基本的な内容の習熟についての個人差が大きく、時間の経過とともに忘れてしまい理解できていない児童も多く見られる。

2 今年度の重点目標

児童の実態や特性を踏まえ、主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成を図るとともに、基礎・基本の確実な習得を目指した分かる授業（宇都宮モデル・西が岡スタイル）を展開し、確かな学力の定着に努める。

個別最適な学びと協働的な学びの実現を意識し、ICT環境の活用や特別支援教育の視点を取り入れた授業の充実を図り、学ぶことの楽しさを実感する教育の推進に努める。

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1）学習意欲を高める指導の工夫

- ・ 興味を高める導入や課題提示の工夫

□教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けの工夫

- ・ 体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入

★民間企業や行政の出前授業を活用した体験的学習の実施

★○自力で課題解決にあたる時間の確保

○ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫

★目標や内容、個人の理解度に応じた多様な学習形態の工夫（習熟度別学習、少人数学習、養護教諭・学校司書・栄養職員とのT.T）

★○ICT機器や1人1台端末、図書等の効果的な活用

（2）分かる授業を目指した授業力の向上

★□主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル（つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる）」を取り入れた授業の実施

□○児童への言葉掛け、学習方法、教材、AI型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫

★課題提示、教材提示、発問の工夫（特別支援教育の視点を取り入れる。）

★問題解決への見通しを立て、教科の見方・考え方を使って考える授業の展開

★○児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上

- ・ 学習した経過や学んだ内容が分かりやすい板書の工夫

○「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を明記し、授業の流れや学びが見えるノート指導の工夫

★1人1授業の公開による授業研究

★○授業の終末で学習内容を振り返り、学んだことを共有する場の設定

★可能な限り、教科担任制を取り入れる。（授業の質の向上と学力向上を目指す。）

（3）基礎学力の定着と家庭学習の習慣化

★○各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導

- ・ T.Tによる朝の学習の時間の効果的・計画的な活用
- ・ 単元や学期ごとに復習する機会の設定

★個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化

★「学習チャレンジ週間」の実施による、家庭と連携した学習習慣の定着と意欲の向上

- ・夏期学習会（学習ボランティア）
- ・学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動